

令和 7 年度 働き方改革に関する教職員へのアンケート調査結果

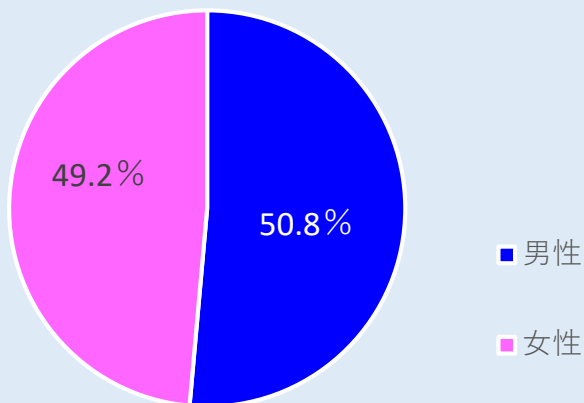
○ 調査期間：令和 7 年 6 月 26 日～ 8 月 8 日

○ 回答数：839 名（小中義務学校 406 名、県立学校 433 名）

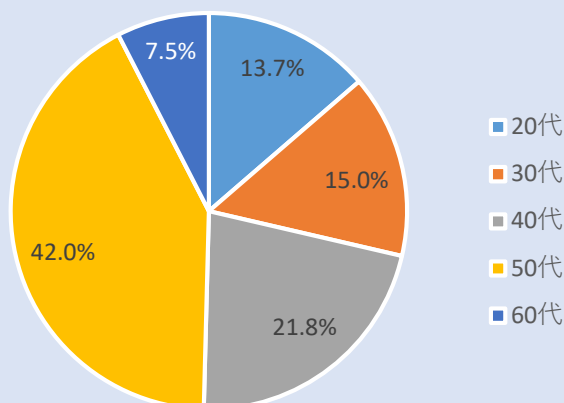
○ 回答率：90.2%（小中義務学校 84.6%、県立学校 96.2%）

※各アンケート項目の割合の合計は、端数処理により必ずしも100%にならない場合もあること

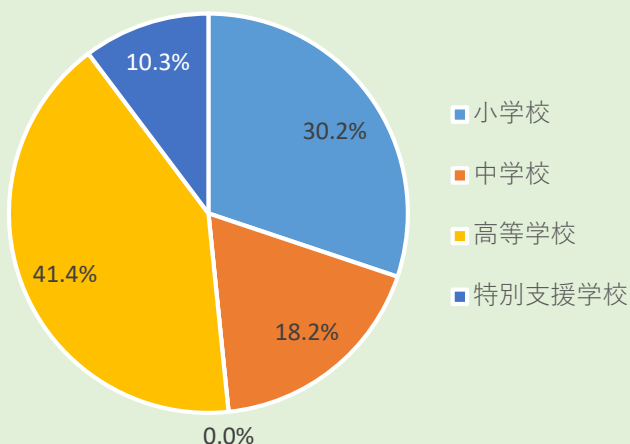
問 A-1 性別



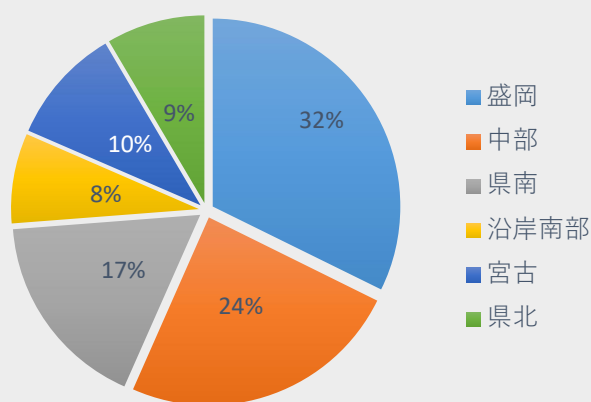
問 A-2 年代



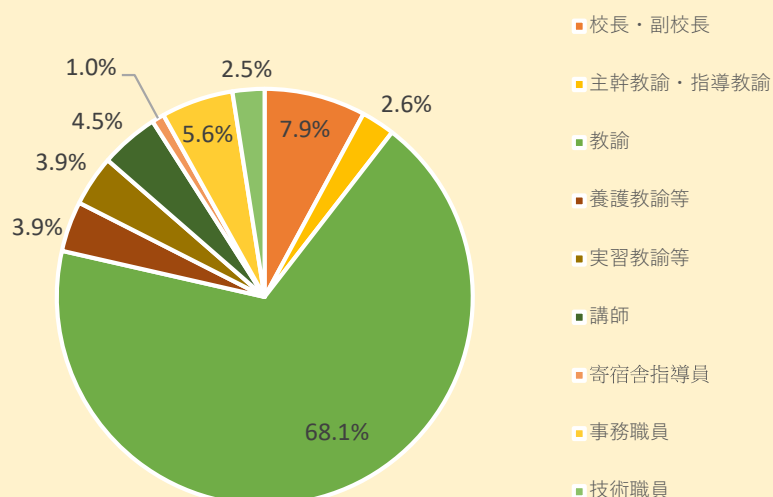
問 A-3 校種別



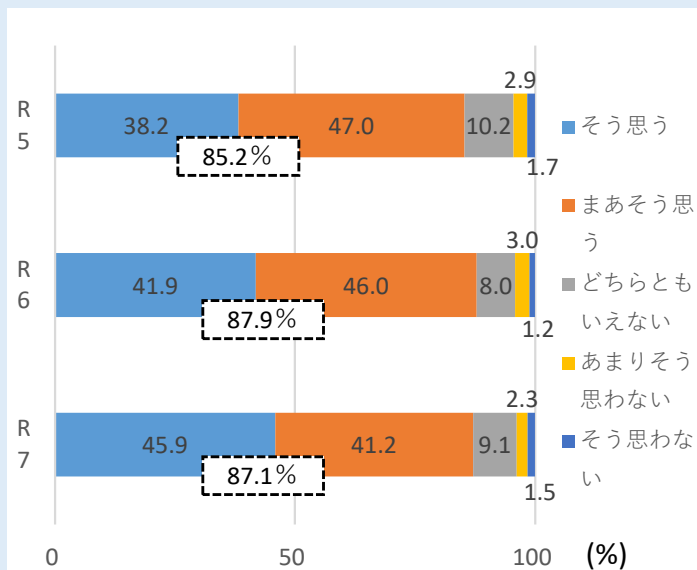
問 A-4 事務所別



問 A-5 職種別

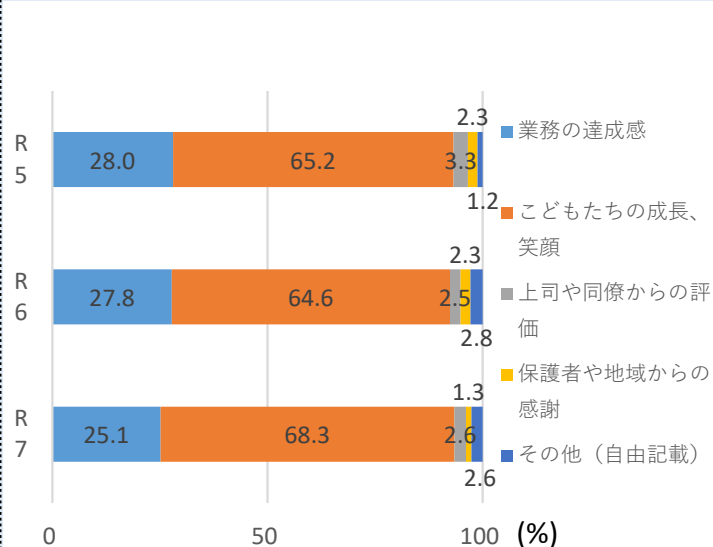


問B－１ 現在の業務にやりがいを感じていますか【プラン目標】



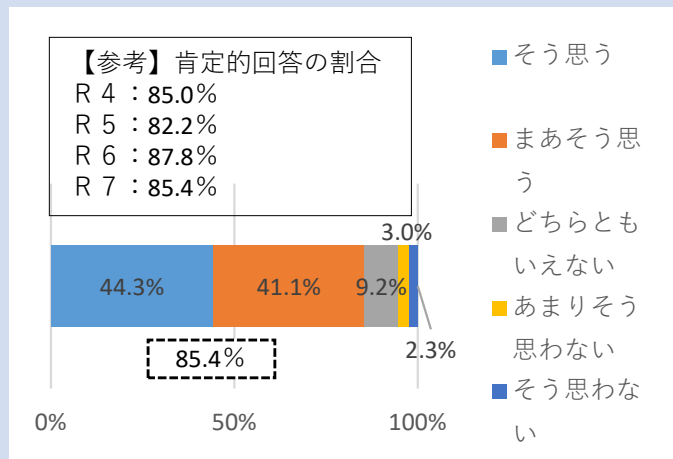
- 現在の業務にやりがいを感じている教職員は、「そう思う」「まあそう思う」の回答割合が87.1%と高い状況であるが、R 6年度比では微減している。（R6比0.8ポイント減）

問B－２ どのようなときにやりがいを感じますか

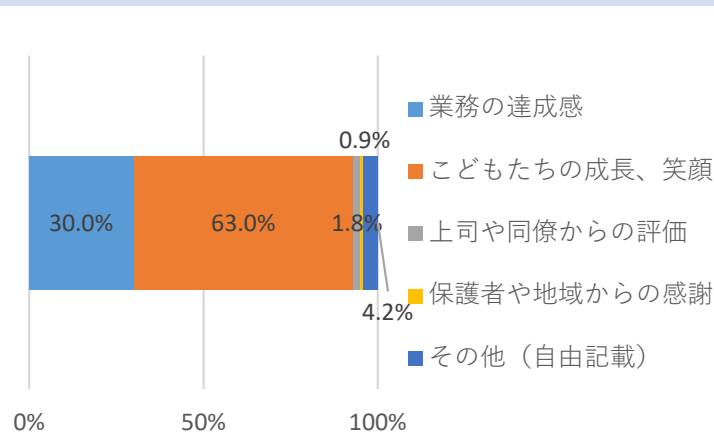


- やりがいを感じる場面としては「子どもたちの成長、笑顔」が約68%、「業務の達成感」が約25%と高い割合を占めており、前者は増加傾向であるのに対して、後者は減少傾向であること。

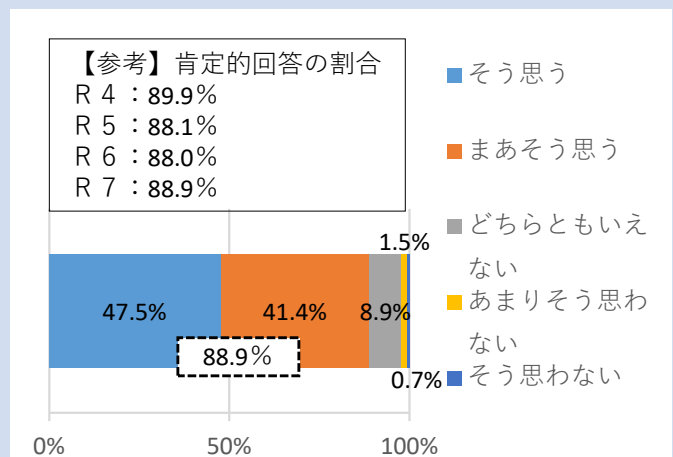
（R 7 内訳：県立）



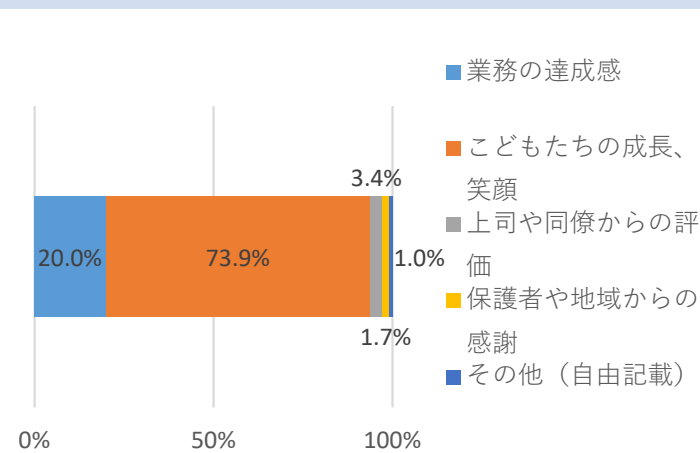
（R 7 内訳：県立）



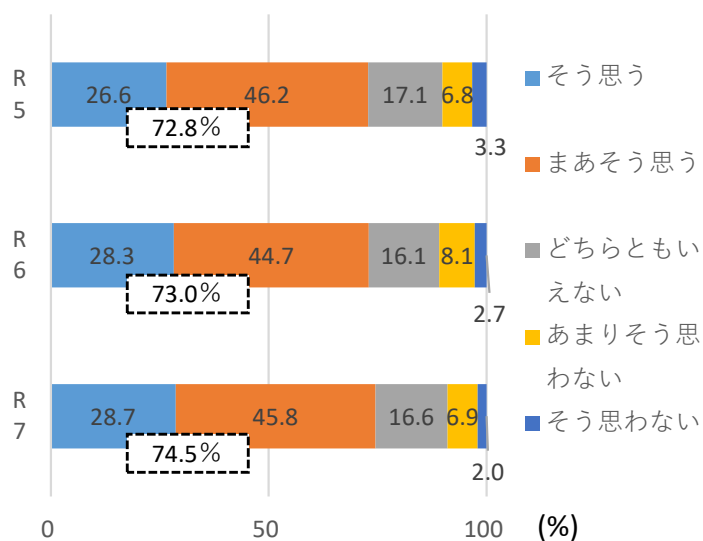
（R 7 内訳：小中）



（R 7 内訳：小中）

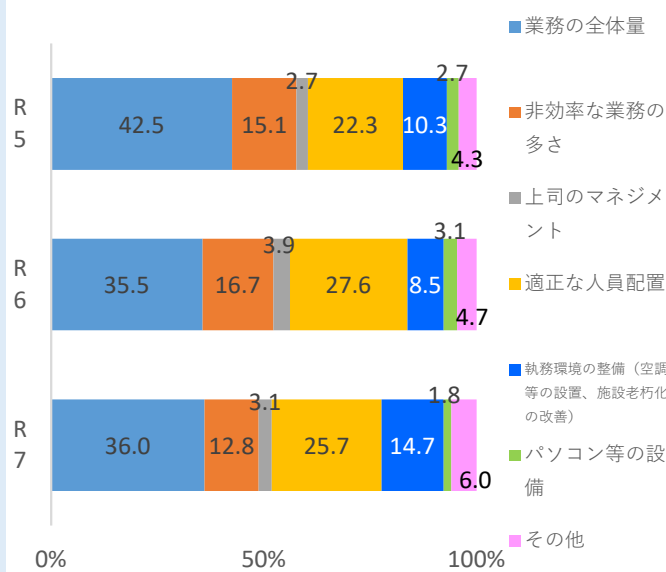


問B－3 あなたの職場は働きやすい環境だと思いますか



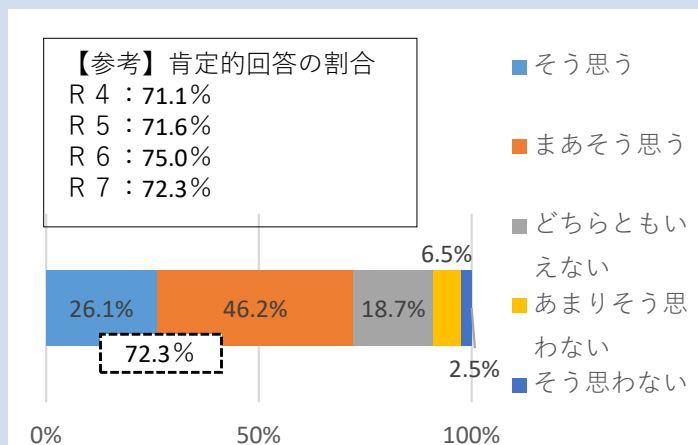
- 職場環境については、約75%が働きやすいと感じており、肯定的回答の割合は徐々に増加傾向である。
- 校種別では、R 6 以外は、肯定的回答の割合が小中 > 県立となっている。

問B－4 あなたの職場で最も改善してほしいものは何ですか

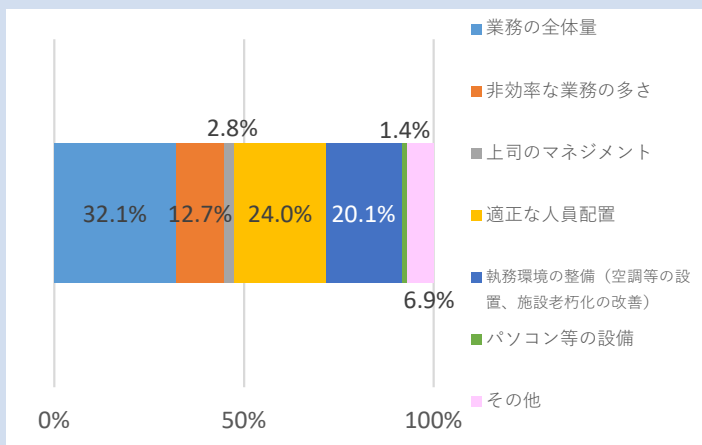


- 職場の改善事項としては「業務の全体量」が約36%と一番多く、次に「適正な人員配置」が約26%となっている。
- 校種別では、「業務の全体量」の割合が小中 > 県立となっているのに対し、「執務環境の整備」は小中 < 県立となっている。

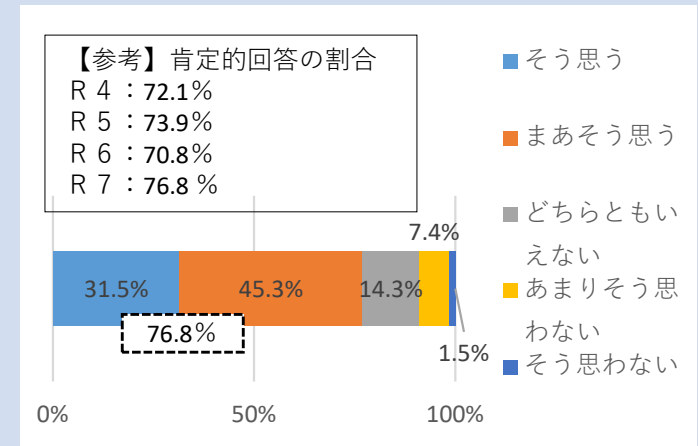
(R 7 内訳：県立)



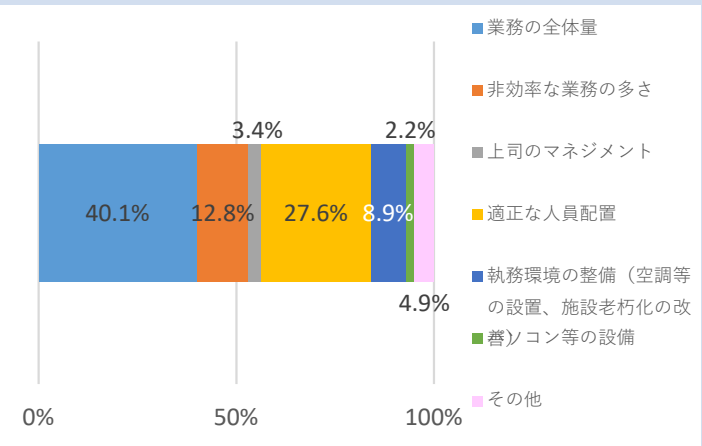
(R 7 内訳：県立)



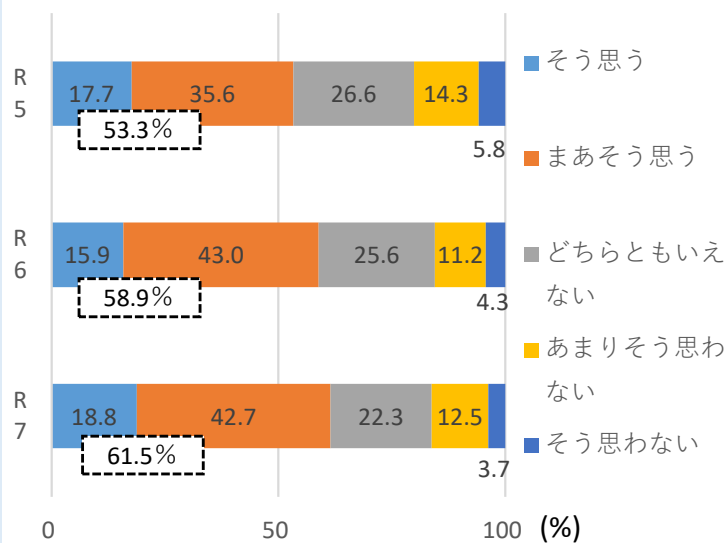
(R 7 内訳：小中)



(R 7 内訳：小中)

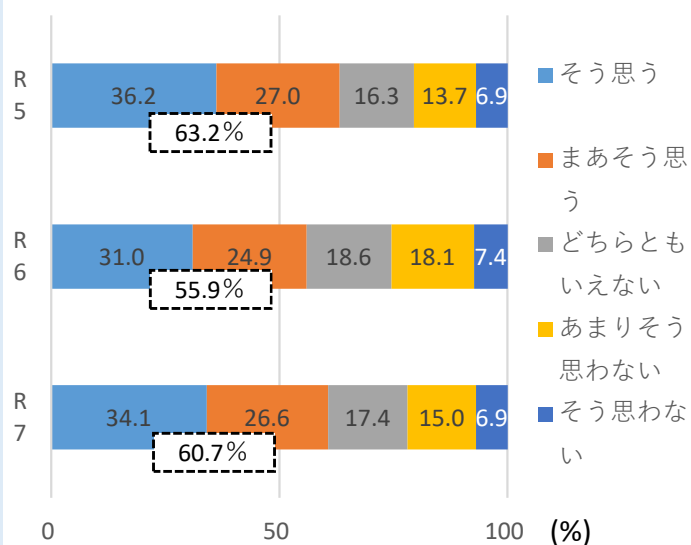


問B－5 授業や授業準備に集中できていると感じていますか【プラン目標】



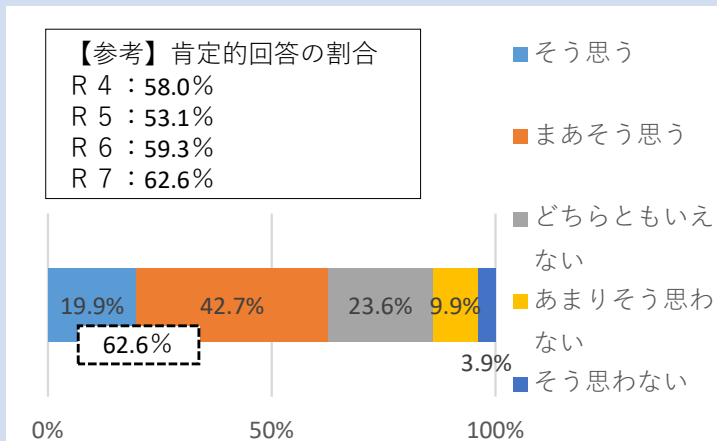
- 授業や授業準備に集中できていると感じている教員は、約62%と昨年度（R 6）比で増加している。
- 校種別でも同様の傾向。

問B－6 時間外勤務時間が多いと感じますか

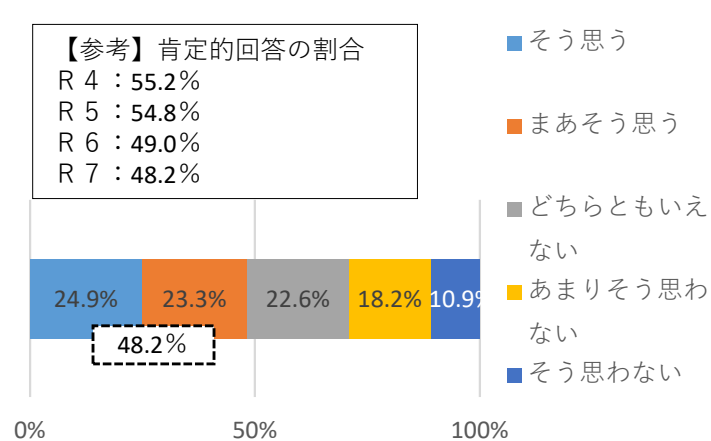


- 時間外勤務が多いと感じている教職員の割合はR 6 比で増加している。
- 上記教員に係る校種別の内訳は、県立学校教員は48.2%であるのに対し、小中学校教員は73.8%と開差がある。

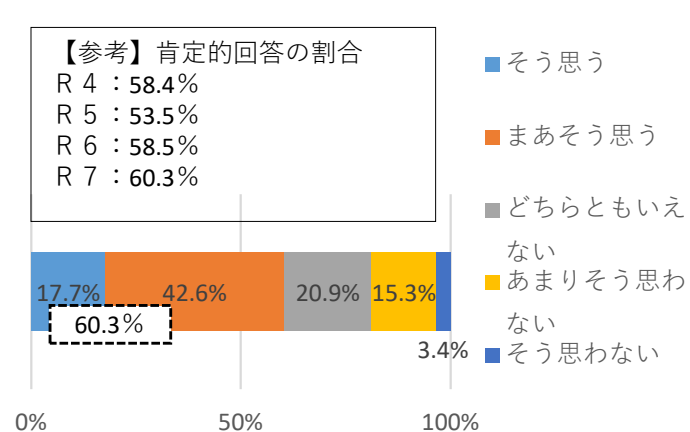
（R 7 内訳：県立）



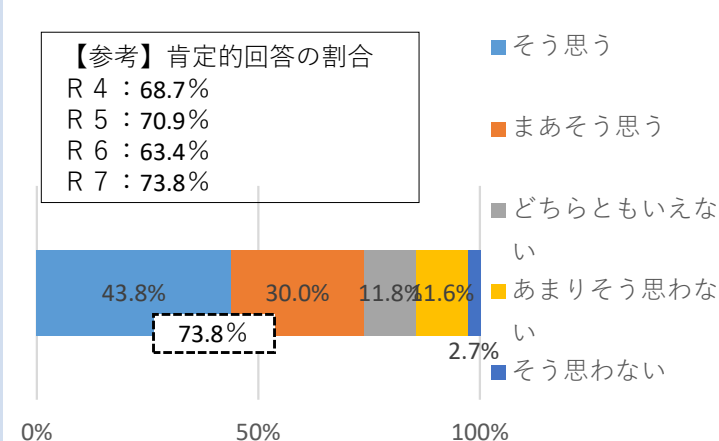
（R 7 内訳：県立）



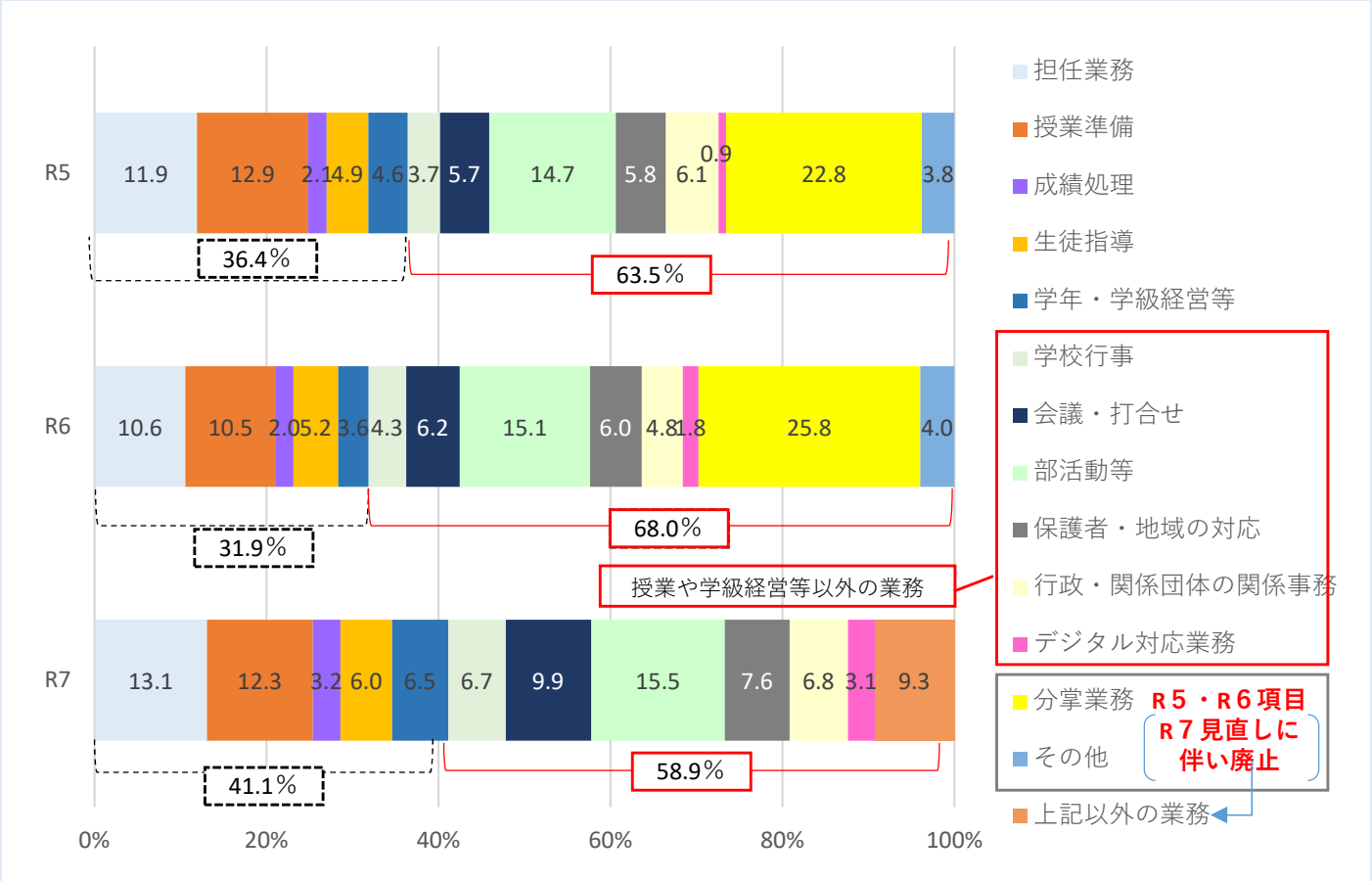
（R 7 内訳：小中）



（R 7 内訳：小中）



問B－7 時間外勤務の要因は何ですか



【全体的な傾向】

- 授業や学級経営等以外の業務（学校行事、会議・打合せ、部活動、保護者地域等の対応、行政・関係団体の関係事務等）が約59%と高い割合を占めており、特に部活動の割合が大きい。

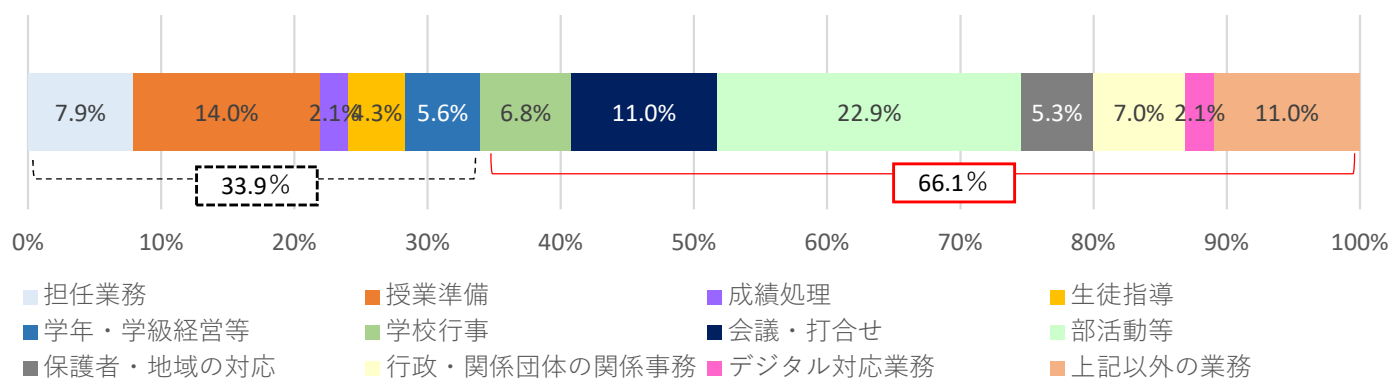
【県立学校の傾向】 次頁参照

- 授業や学級経営等以外の業務（学校行事、会議・打合せ、部活動、保護者地域等の対応、行政・関係団体の関係事務等）が約66%と高い割合を占めている。
県立学校全体における時間外勤務の要因をみると、①部活動（22.9%）、②授業準備（14.0%）、③会議・打合せ（11.0%）でほぼ全体の半分弱（47.9%）となっているが、県立学校の内訳をみると
割合が多い主な要因としては
「高等学校」では、①部活動（28.6%）、②授業準備（11.6%）、③会議・打合せ（8.4%）
「特別支援学校」では、①授業準備（23.8%）、③会議・打合せ（21.2%）となっており、校種の特性が表れている。

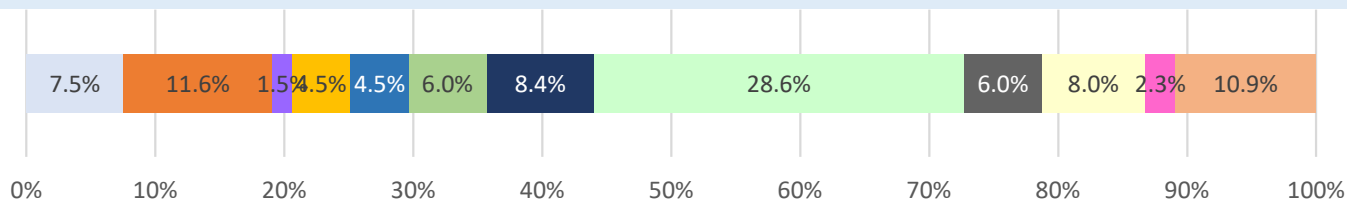
【小中学校の傾向】 次頁参照

- 担任業務、保護者等対応が県立学校と比較して相対的に高い割合となっている。
 - ・担任業務：（小中）18.2%（県立）7.9%
 - ・保護者等対応：（小中）9.7%（県立）5.3%
- 小学校と中学校別にみると、小学校で①担任業務の割合、②保護者等対応が、中学校では、①部活動の割合が高い。

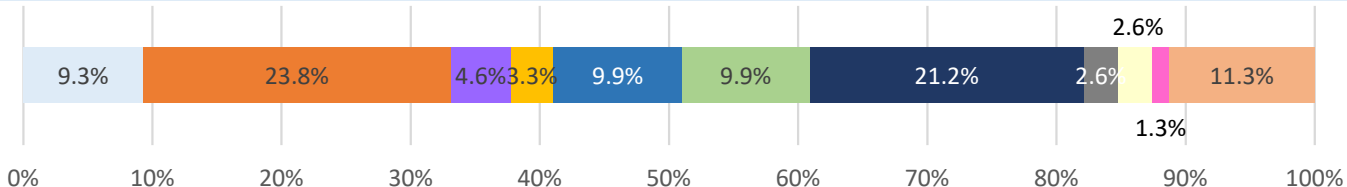
【R 7 内訳：県立学校】



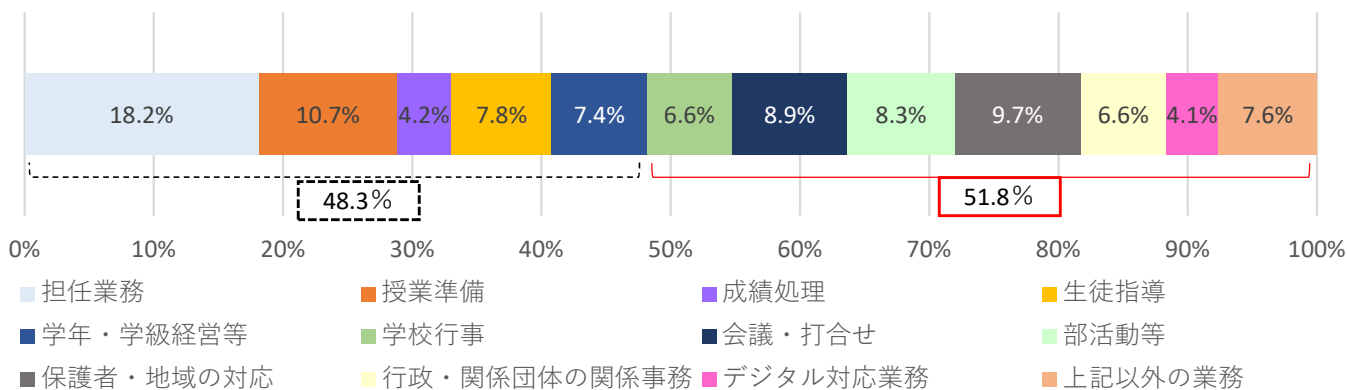
(県立学校内訳：高等学校)



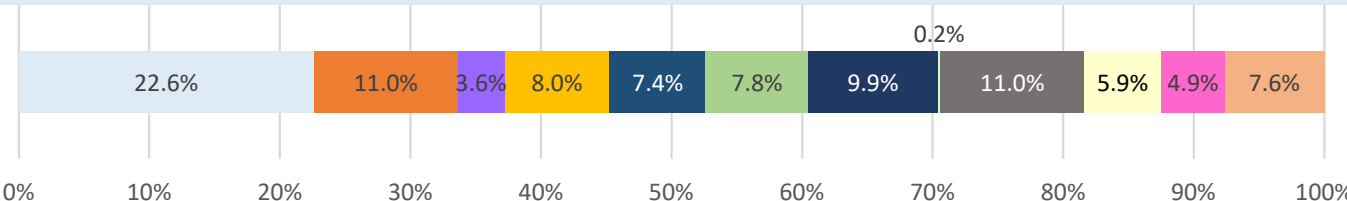
(県立学校内訳：特別支援学校)



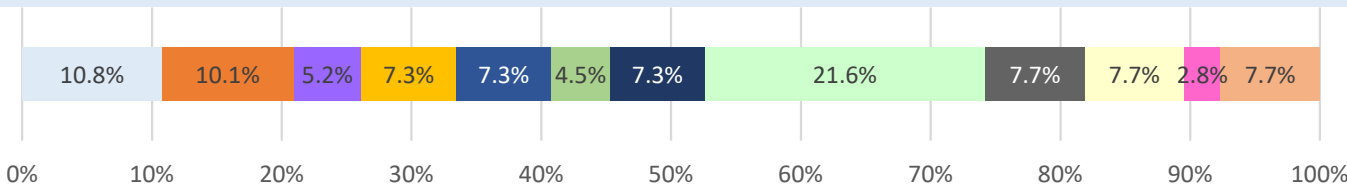
【R 7 内訳：小中学校】



(小学校（義務含む）)

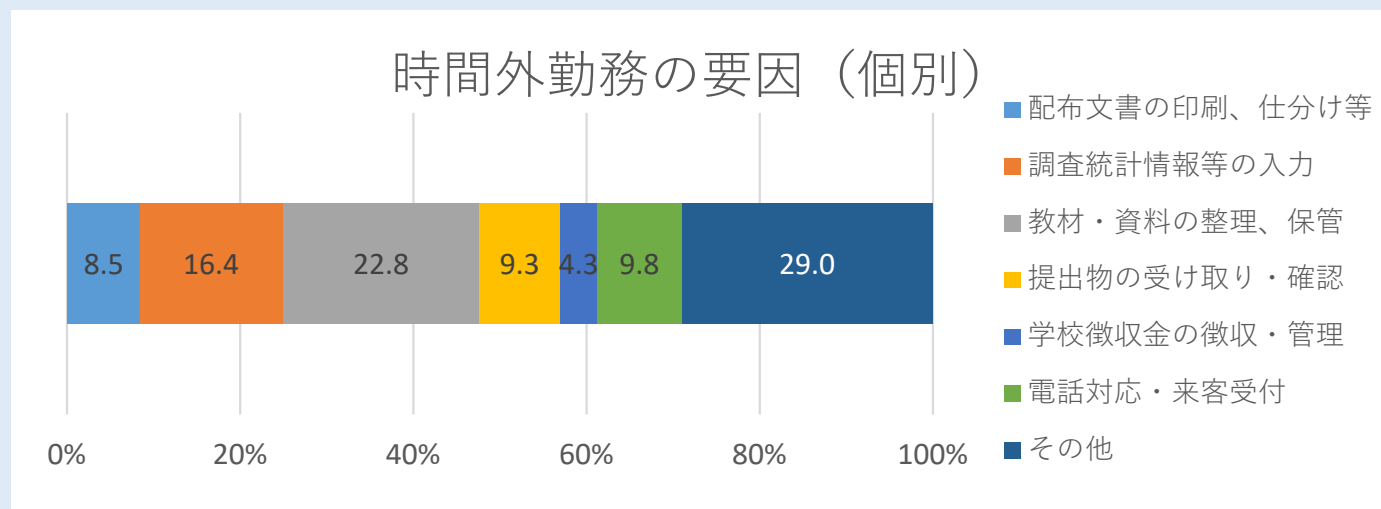


(中学校)



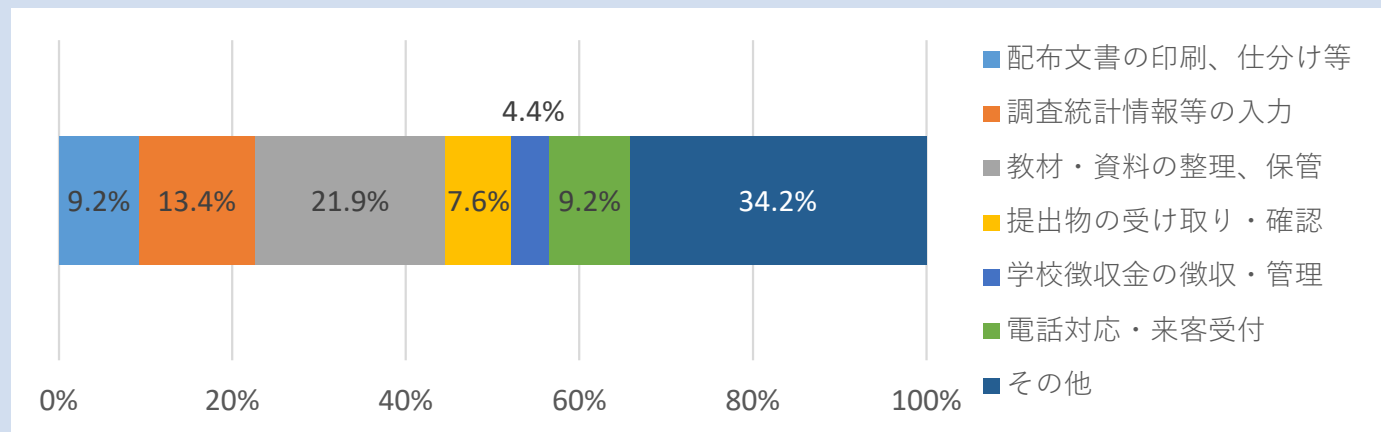
問B－8 時間外勤務の要因（必須） R 7 新規

特に、どのような業務が時間外勤務の要因となっていますか。
（1つ選択してください。）

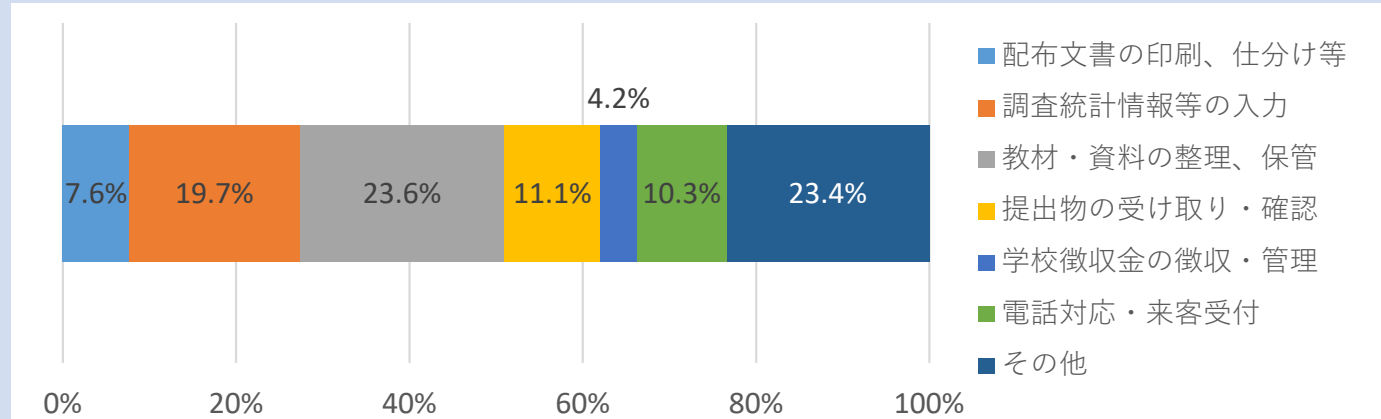


- 時間外勤務の個別要因として、①教材・資料の整理、保管（22.8ポイント）、②調査統計情報等の入力（16.4ポイント）、③電話対応・来客受付（9.8ポイント）の上位3項目で、約半数を占めている。
- 校種別にみると、県立学校・小中学校ともに①教材・資料の整理、保管、②調査統計情報等の入力が高い要因となっているが、小中学校の方がいずれもポイントが高くなっている。
- 「その他」としては、（選択肢1つとしているものの）複数の要因をあげている回答が多かったもの。

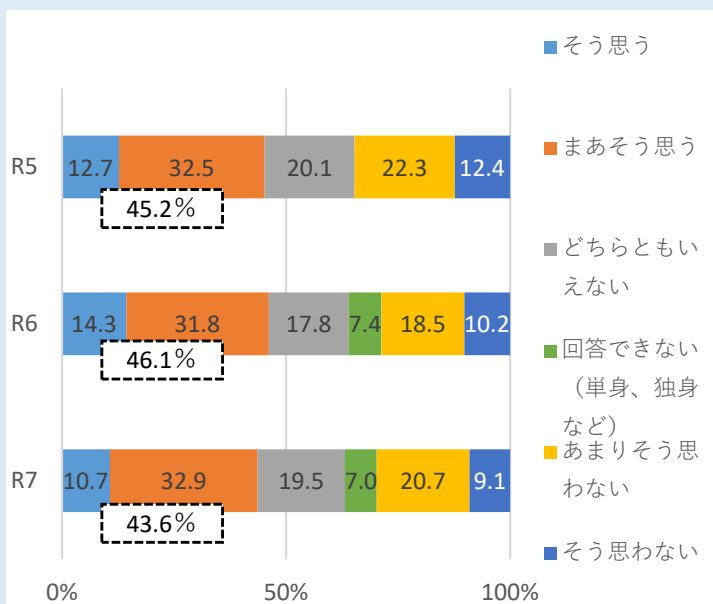
（R 7 内訳：県立）



（R 7 内訳：小中）

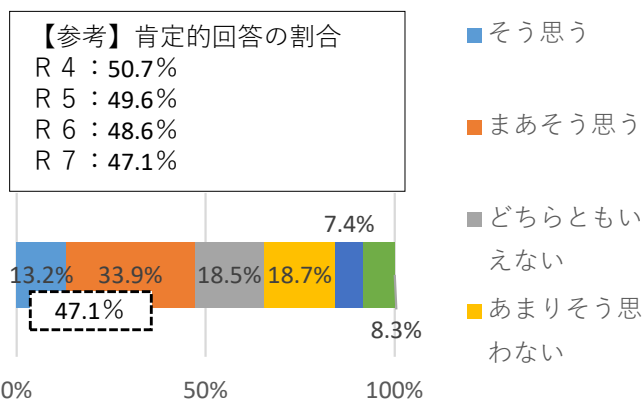


問Ｂ－９ 自分の家庭のための時間を十分に確保できていますか【プラン目標】

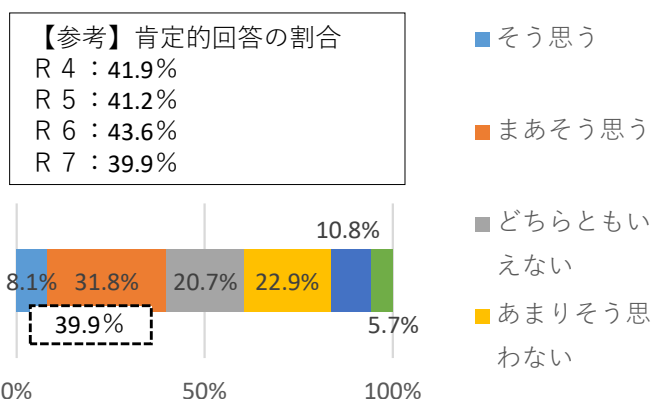


- 家庭のための時間の確保ができていると感じている教職員は、R 6 年度よりも2.5ポイント減少している。
- 上記教職員の校種別内訳は、県立学校の教職員が約47%であるのに対し、小中学校の教職員は、約40%と乖離が見られる。

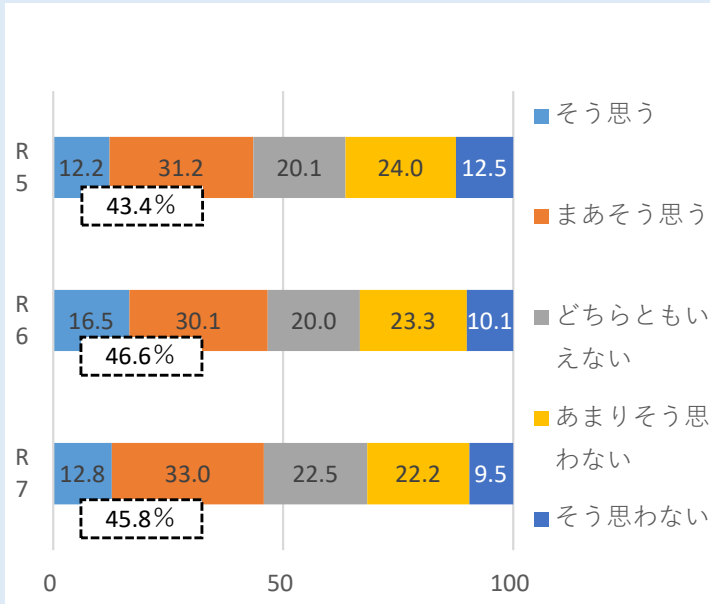
(R 7 内訳：県立)



(R 7 内訳：小中)

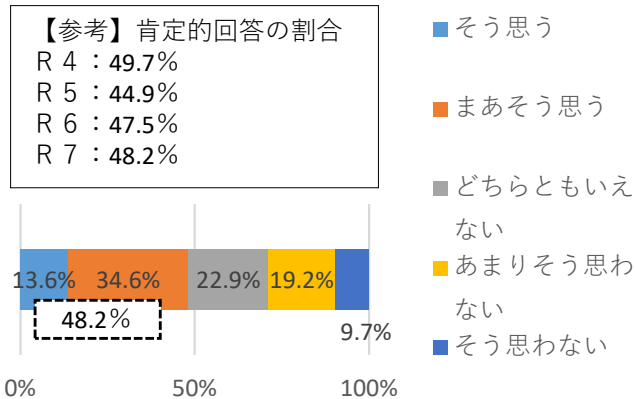


問Ｂ－１０ 自分自身の自由な時間を確保できていますか【プラン目標】

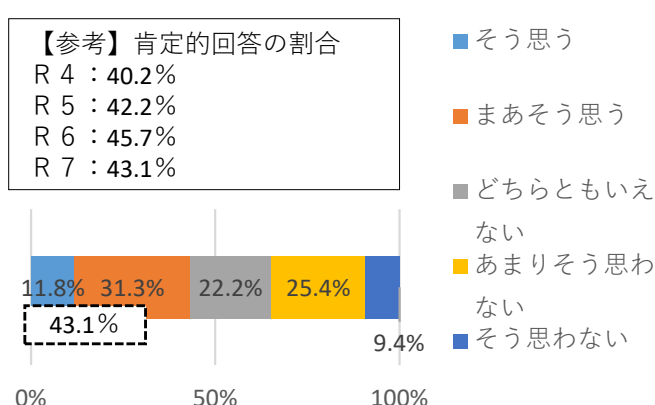


- 自分自身の自由な時間を確保できていると感じている教職員は、R 6 年度よりも0.8ポイント減少している。
- 校種別内訳は、肯定的回答が多い割合として県立>小中となっている。

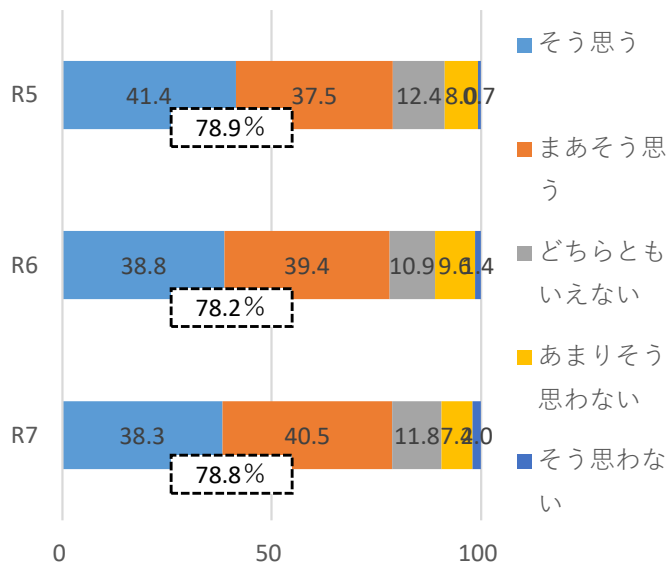
(R 7 内訳：県立)



(R 7 内訳：小中)

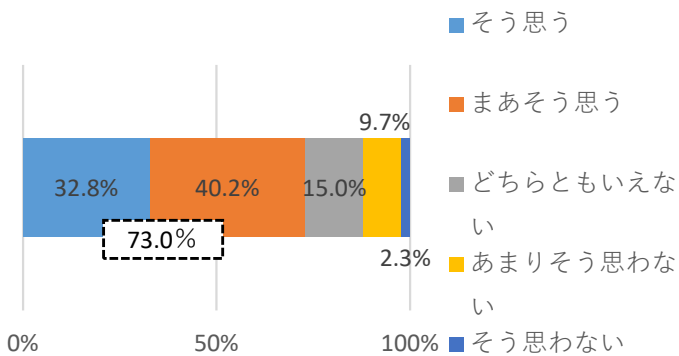


問B－１１ 日々の業務の中で、疲労感や焦燥感を感じていますか

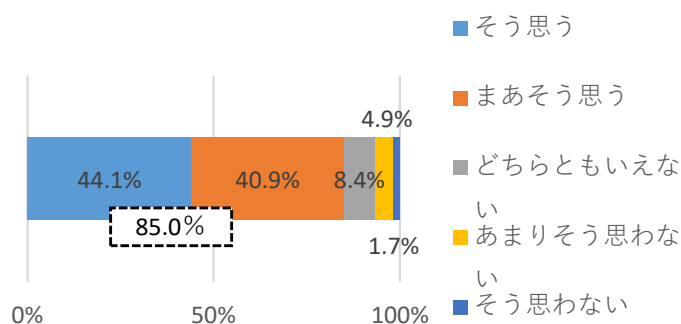


- 日々の業務で疲労感を感じている教職員は、約79%と引き続き高い割合にある。
- 校種別では、小中学校が県立高校よりも高い割合となっている。

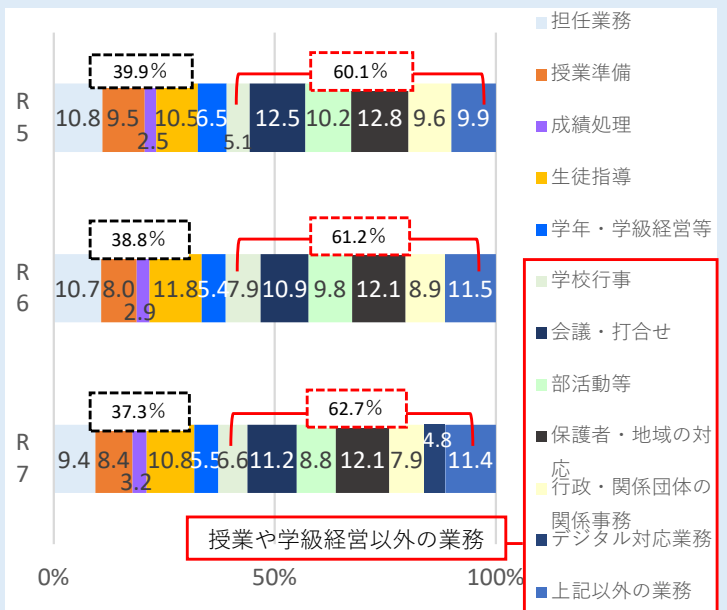
(R 7 内訳：県立)



(R 7 内訳：小中)

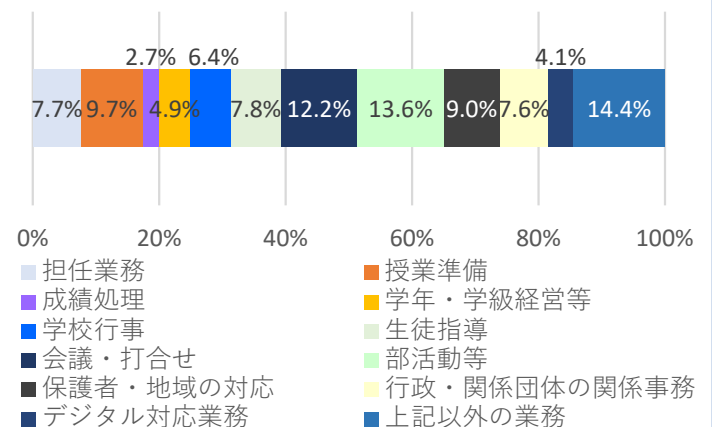


問B－１２ 疲労感や焦燥感を感じるのはどのような業務ですか

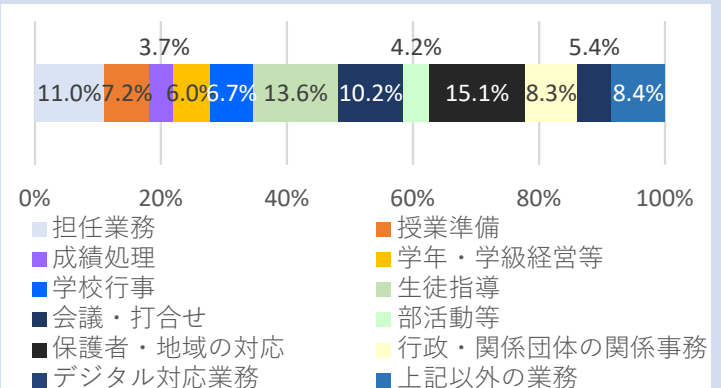


- 疲労感や焦燥感を感じる要因としては、授業や学級経営以外の業務が6割以上を占めており、年々増加傾向にある。
- 県立学校では「部活動」が、小中学校では「保護者・地域の対応」が全体に占める割合として高くなっている。上記以外の業務としては、分掌業務が多くあげられている。

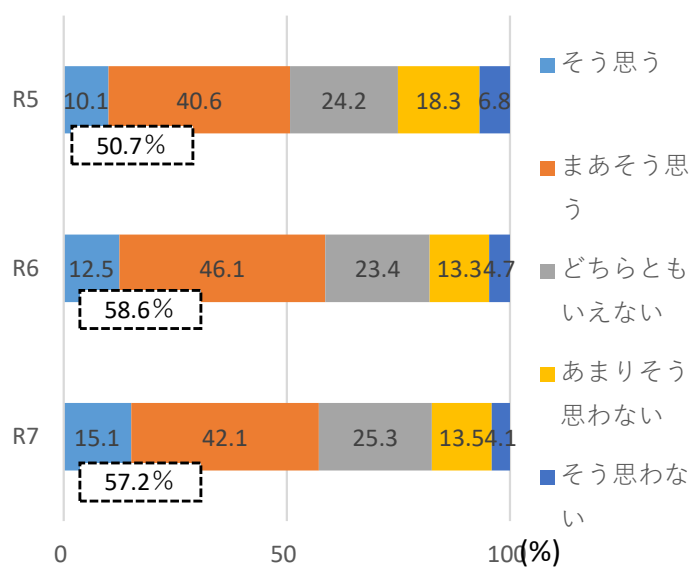
(R 7 内訳：県立)



(R 7 内訳：小中)

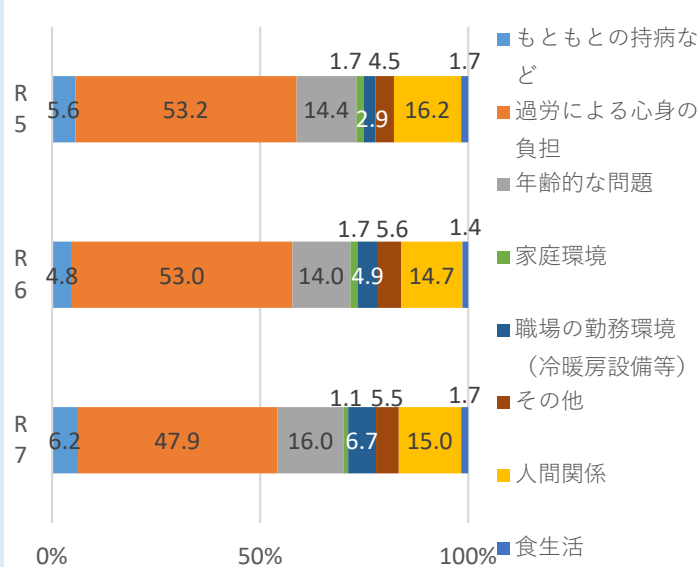


問B－１３ 健康でいきいきと業務ができていると感じていますか【プラン目標】



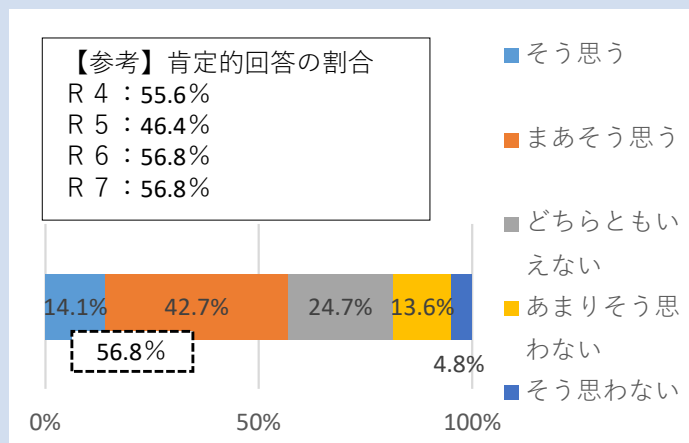
- 健康でいきいきと業務ができていると感じている教職員は、約57%とR6より減少している。（R6比1.4ポイント減）

問B－１４ 健康的に業務ができない要因は何ですか

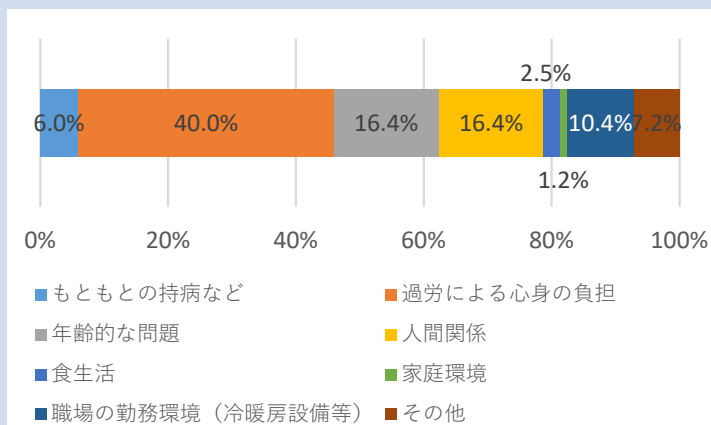


- 健康的に業務できていない理由としては、「過労による心身の負担」が約半数であり、次に「年齢的な問題」「人間関係」の順に多い割合となっている。
- 「過労による心身の負担」を理由とする割合は、小中学校が県立学校を大きく上回っている。

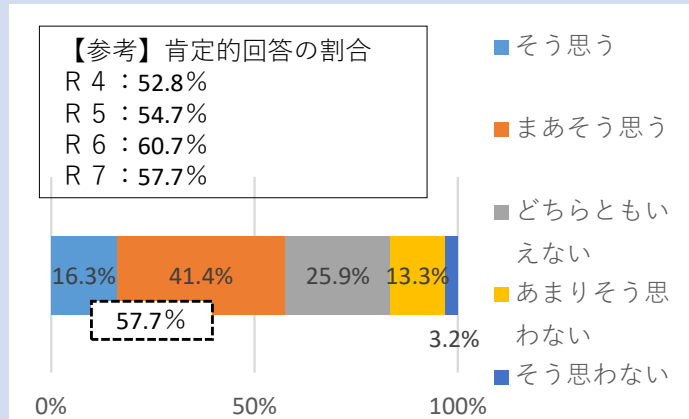
（R7内訳：県立）



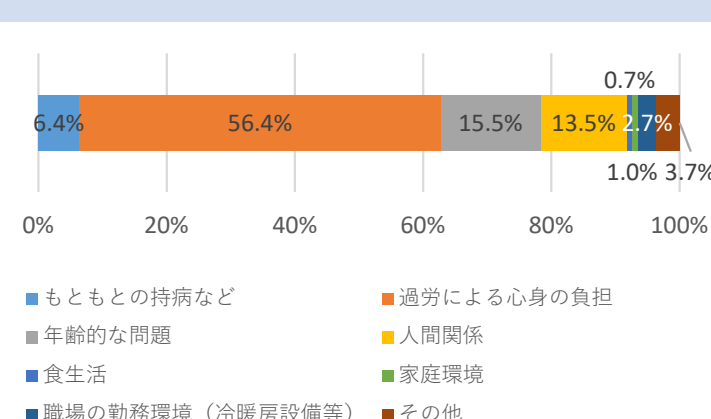
（R7内訳：県立）



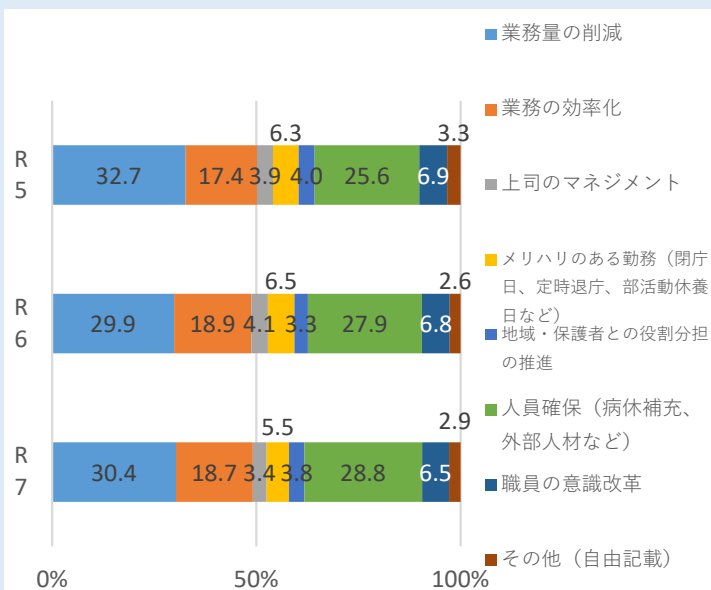
（R7内訳：小中）



（R7内訳：小中）

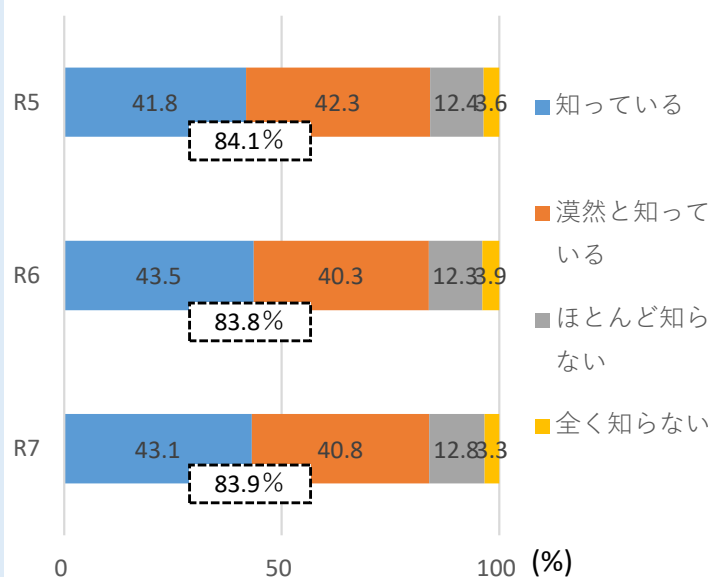


問B－15 時間外勤務を減らすためにはどのような必要がありますか



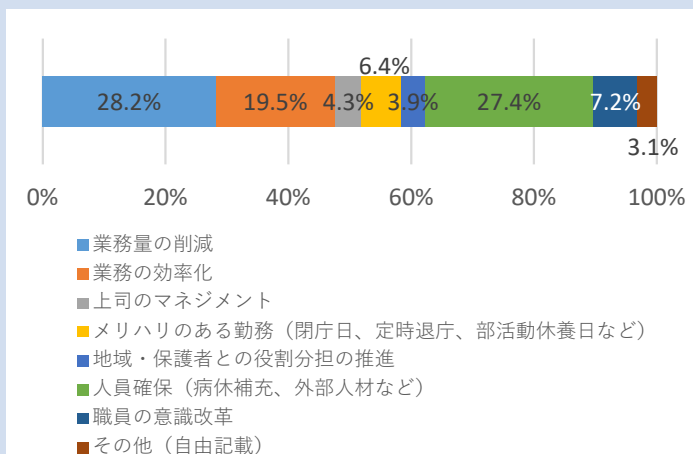
- 時間外勤務を減らすために必要なこととして多い順に①業務量削減（30.4%）、②人員確保（28.8%）、③業務の効率化（18.7%）があげられており、これら3項目で全体の約8割弱となっている。

問B－16 県教委の「働き方改革プラン」を知っていますか

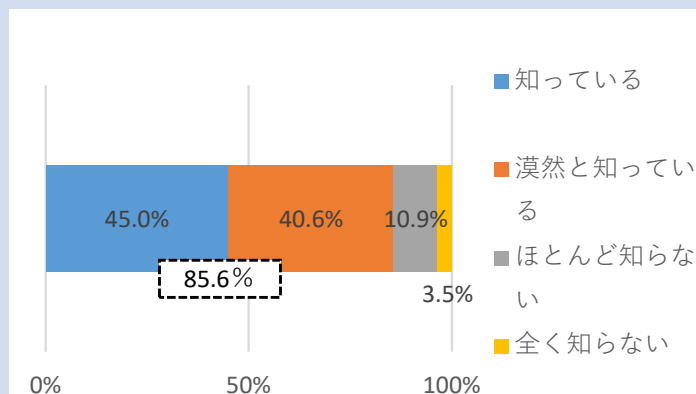


- 8割を超える職員がプランを知っている（漠然と知る場合を含む）としているが、1割強が未だ認知していない状況であり、引き続き周知していく必要があること。

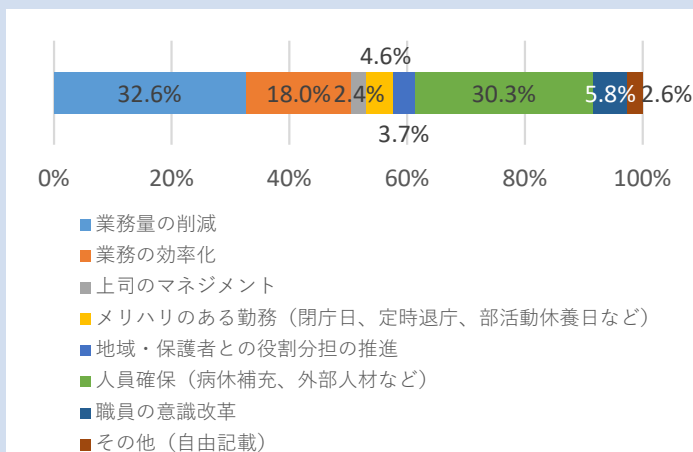
（R7内訳：県立）



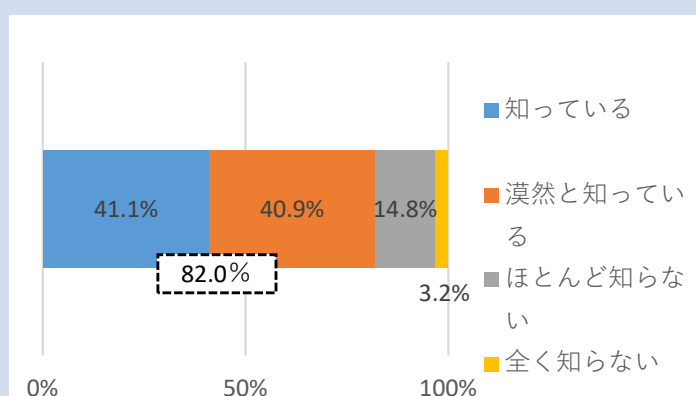
（R7内訳：県立）



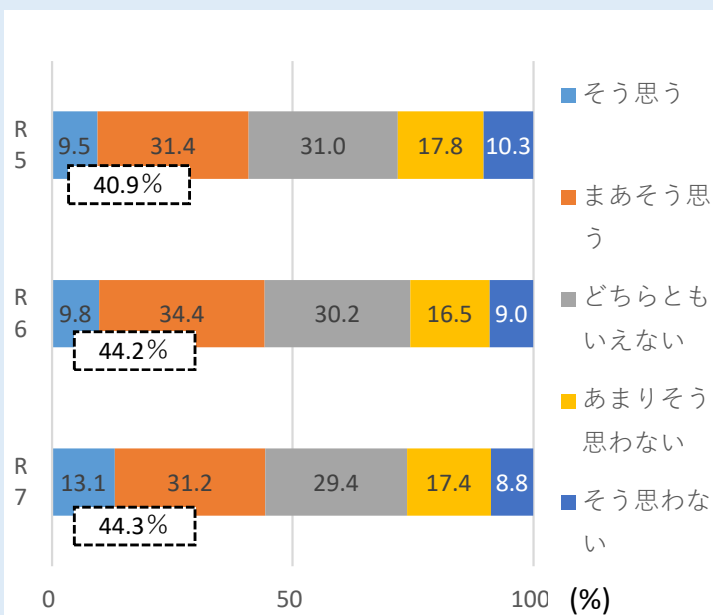
（R7内訳：小中）



（R7内訳：小中）

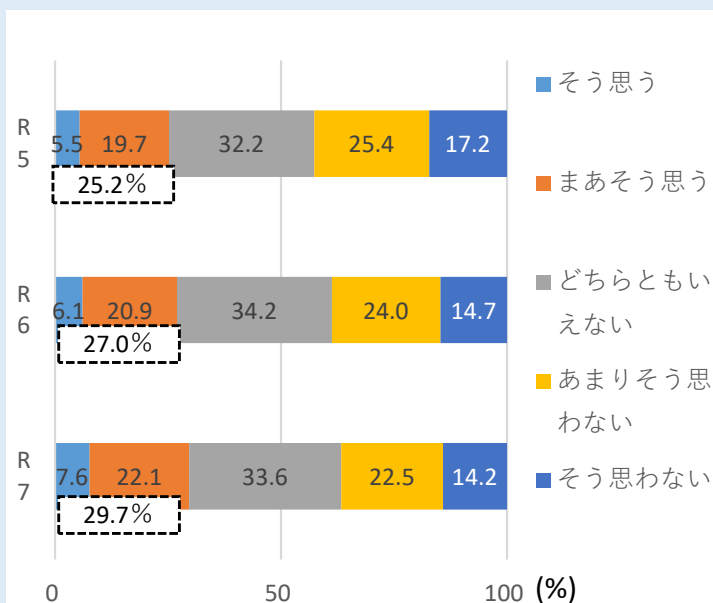


問B－１７ あなたの職場において、働き方改革の取組が行われていると感じますか



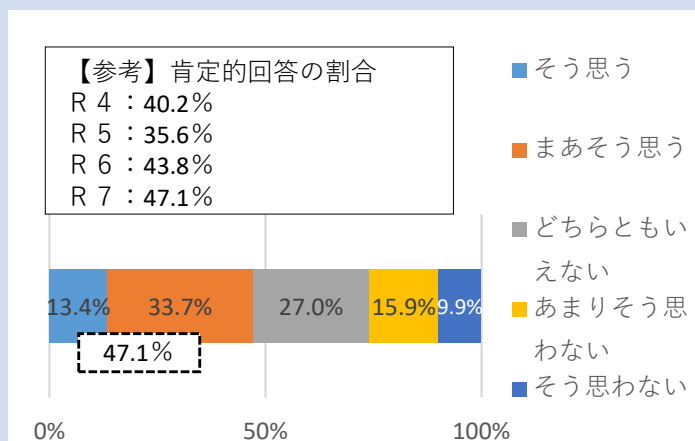
- 職場における取組が行われていると感じる割合は、4割強程度にとどまっており、未だ働き方改革の取組に課題がある状況。
- R 6との比較で、県立学校において、3.3ポイント上昇であるのに対し、小中学校において、3.3ポイント減少と認識に開差がある。

問B－１８ プランを策定した以降、職場の負担軽減が進んでいると思いますか

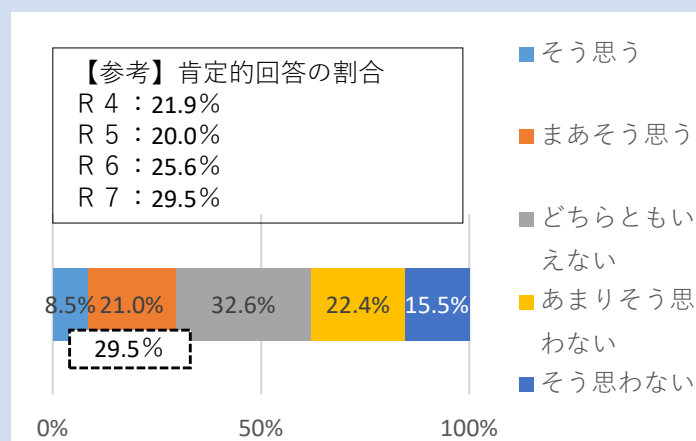


- 職場における負担軽減を実感している教職員の割合は、30%程度と低く、プランの取組効果が、学校現場において発現されていないが、年々微増している。
- 肯定的回答の割合を校種別にみると、県立学校と小中学校は同程度となっている。

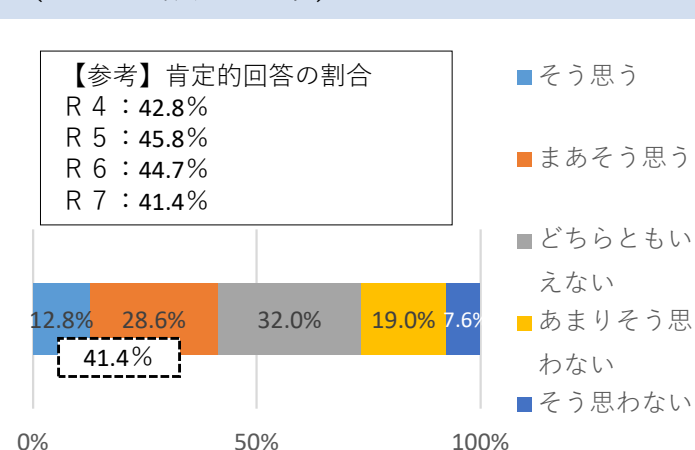
(R 7 内訳：県立)



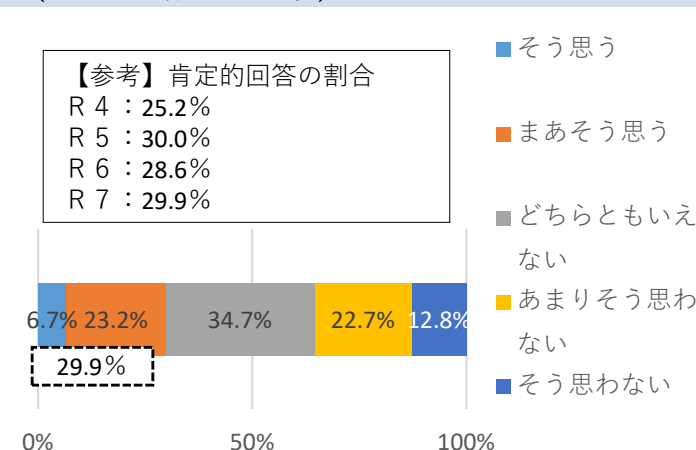
(R 7 内訳：県立)



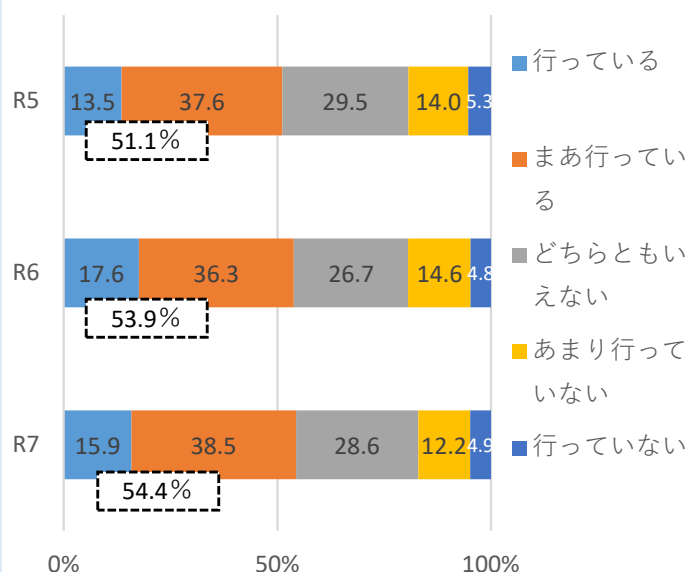
(R 7 内訳：小中)



(R 7 内訳：小中)

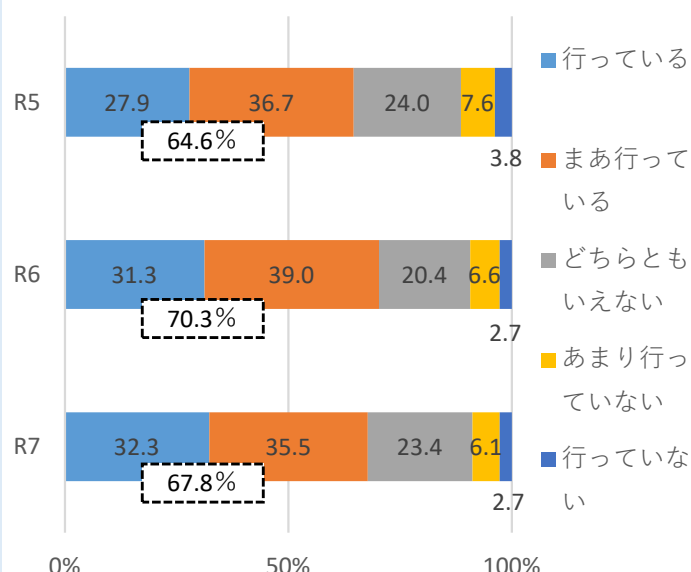


問B－19 あなたは職場において自分なりの働き方改革の取組を実践していますか



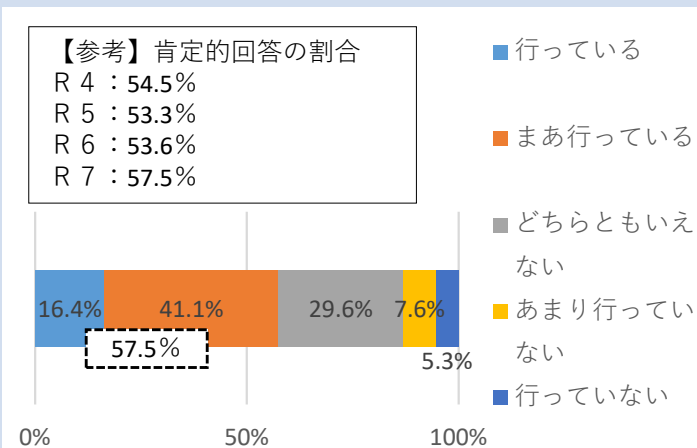
- 教職員自身が自分なりの働き方改革を実践している割合は約54%とR6年から微増。
- 校種別にみると、R6と比較して、県立学校は3.9ポイント増加しているのに対し、小中学校では3.3ポイント減少し、開差がある。

問B－20 職場において、管理職が率先して働き方改革の取組の呼掛けや実践を行っていますか

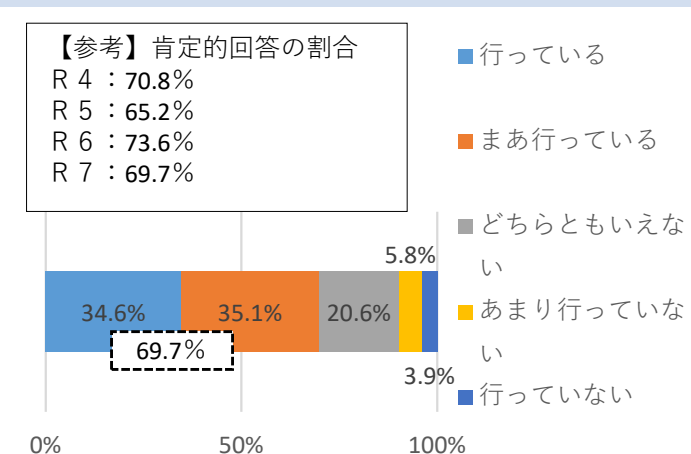


- 管理職の声掛けや実践が行われていると感じている割合は、約7割。
- 校種別の内訳では、県立学校、小中学校ともにR6→R7に減少している。

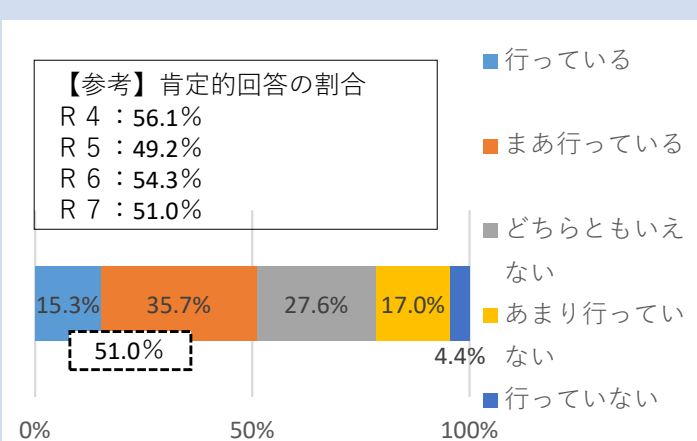
（R7内訳：県立）



（R7内訳：県立）



（R7内訳：小中）



（R7内訳：小中）

